



武蔵村山市立小・中学校

学校図書館だより

— 本で育つ 本でつなぐ —

発行 武蔵村山市教育委員会

編集 武蔵村山市学校図書館活用推進プロジェクト学校図書館だより編集委員会



読書を通して

「生きる力」を

武蔵村山市教育委員会

教育長 持田 浩志



「本を読む。」
ごくありふれた日常であると感じますが、

現在、読書活動を学校教育において重点的に行っていくことが必要な時代となりました。それは、「読書」というものが、子供の知的好奇心を増進し、言語に対する関心や理解を深めるとともに、人間形成や情操を養う上で重要であるからです。つまり、読書を通して「生きる力」をはぐくむということです。武蔵村山市のすべての小・中学校に配置した学校司書のみさんの力添えで、視覚に訴える環境づくりが進められ、児童・生徒の読書意欲が一層向上していると聞いております。保護者や地域の方々との連携・協力をさらに進め、子供たちの「生きる力」を地域全体ではぐくんでいくことを願っています。

学校図書館活用推進

プロジェクトについて

子供の言語感覚を磨き、情操を豊かにするために、読書活動は欠かすことのできない重要な活動であり、学校においてその中心となるのが学校図書館です。

学校図書館活用推進プロジェクトは、学校における読書活動を推進し、児童・生徒の健全な育成に資することを目的に、司書や司書教諭、司書補等の資格や、読み聞かせボランティア等の豊富な活動経験をもつ地域の方を学校司書として配置して行っています。

平成二十一年七月の開始当初から、各学校図書館において、蔵書の質・量などについて一層の充実を図ってきました。そして、毎月実施している「学校司書連絡会」の中で、市の図書館職員を講師に招いた研修会を行い、そこで学んだ知識を活かして、室内ディスプレイなどの環境作りもはじめました。また、貸し出し方法や購入図書の設定に関する研究等、読書環境の充実に取り組みました。

さらに、学校図書館の管理・運営

について、各校の司書教諭や担当教員と話し合い、図書の時間や総合的な学習の時間を活用した読み聞かせのほか、ブックトーク、オリエンテーション、調べ学習の教材準備、読書週間中の支援、読みたい本や紹介したい本の調査等の実施など、充実を図ってきました。

それにより各学校の読書環境は一層充実し、以前より利用者も増え、子供の読書量も増えていると評価されています。

今後も引き続き研修を深め、子供たちに読書の楽しさや大切さを伝え、読書好きな児童・生徒の育成を目指します。



きれいに整理され飾られた図書室の本

平成 21 年度 学校別図書充足率

| 学校名 | 冊数 (冊) | 標準 (冊) | 充足率 (%) |
|------------|---------|---------|---------|
| 第一小学校 | 11,816 | 7,960 | 148.4 |
| 第二小学校 | 13,657 | 7,960 | 171.6 |
| 第三小学校 | 11,158 | 9,960 | 112.0 |
| 第七小学校 | 14,313 | 10,760 | 133.0 |
| 第八小学校 | 18,704 | 9,560 | 195.7 |
| 第九小学校 | 8,096 | 7,960 | 101.7 |
| 第十小学校 | 17,487 | 11,560 | 151.3 |
| 雷塚小学校 | 9,087 | 7,960 | 114.2 |
| 村山学園 (小学部) | 7,453 | 7,960 | 93.6 |
| 小学校計 | 111,771 | 81,640 | 136.9 |
| 村山学園 (中学部) | 3,230 | 7,360 | 43.9 |
| 第一中学校 | 7,309 | 10,720 | 68.2 |
| 第三中学校 | 3,323 | 7,920 | 42.0 |
| 第四中学校 | 11,153 | 11,680 | 95.5 |
| 第五中学校 | 16,712 | 13,120 | 127.4 |
| 中学校計 | 41,727 | 50,800 | 82.1 |
| 合計 | 153,498 | 132,440 | 115.9 |

※「学校図書館図書標準」は、文部科学省が定めた図書整備冊数の目標で、小・中学校別に、学級数に応じて決まっています。
 ※平成 21 年度に充足率が低い学校は、いずれも校舎改築や図書室移転等に伴い、古くなった資料等を整理・処分したことによるものです。

武蔵村山市立学校の 図書館の現状と課題

武蔵村山市における平成二十一年度の学校別図書充足率には、学校によってばらつきがあり、小学校は高く、中学校は低い傾向があります。充足率の高さだけが、その学校の読書活動の指標にならないことは明らかで、充足率が高くても、古い本やあまり読まれなくなった本が置いてあるだけといった例も見られるようです。(左表)

また、ある中学校では、二年間の貸出冊数及び来館者数の推移を一

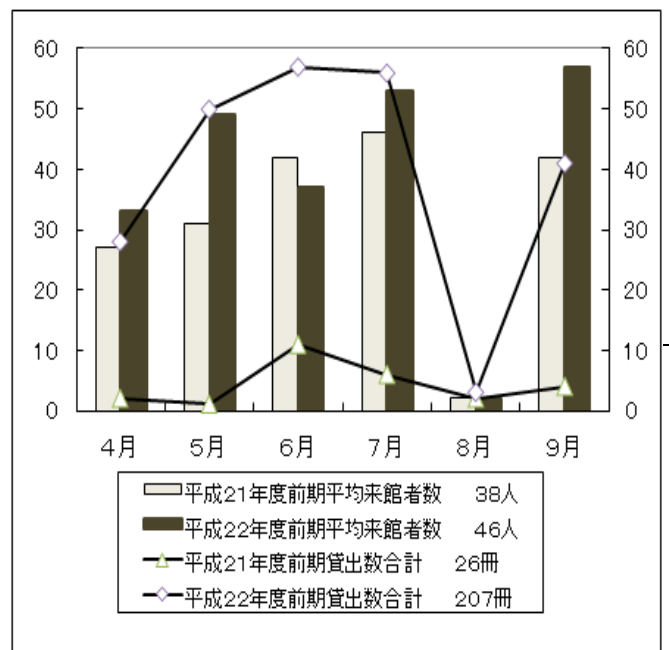
学期間について比較しました。

それによると、学校図書館活用推進プロジェクト発足後に貸出冊数・来館者数が増加しています。

このことから、学校図書館の環境が子供たちの読書に対する意欲により影響を与えていることが容易に想像できます。(下図)

平成二十三年度に向け、学校図書が中心となつて、こうした図書館の蔵書に関する調査を行い、古くなつた本の処分や、購入に際しては各教科の担当者から指導に活用できる資料のリストを提供してもらつたり、子供たちにリクエストを募つたりと、子供たちの読書活動に対する意欲を高めるよう工夫をしていきたいと考えています。

A 中学校における貸出・来館者数の推移 (平成 21・22 年度 1 学期の比較)



A 中学校では、平成 22 年度における来館者は約 20% 増加、貸出冊数は 90% 増加した。

読書時間を確保し、本に親しませよう

家庭で行う読書活動のすすめ

「家庭における 5 つの実践」(平成十七年・武蔵村山市教育委員会)では、本好きの子供を育てるために、家庭における読書活動を勧めています。

子供にとって読書は、想像力や考える習慣を身に付け、豊かな感性や情操、そして思いやりの心をはぐくむ大切な営みです。読書の楽しみを知り、読書に慣れ親しむようにするには、幼少時に親が読み聞かせをしたり、親子で図書館を利用したりするなどの体験活

動が重要です。

こうした体験を通じて、子供が読書を通じて感じたこと、考えたことについて、子供の言葉に耳を傾けることは、子供の読書意欲を高めます。また、同じ本を読み、その内容について親子で語り合うことは、親子の関係を深めるとともに、子供の豊かな心をはぐくみます。

学校図書館では、このように親子で楽しめる本を、これから紹介していきます。

各学校での学校司書の取り組み

各小・中学校に配置された学校司書は、これまで図書担当教員及び司書教諭の有資格教員が行っていた図書室内の整理整頓や、購入・廃棄を含めた蔵書管理等を専門的に行い、教員の支援を図るほか、学校図書館を活用する授業において、児童・生徒に対する読み聞かせや紙芝居、調べ学習などの指導、レファレンス（読書支援）、貸出業務を行っています。

二年目の今年度は週三日の勤務となり、時間的にも一層の充実が図られました。

今年度は年間八回の研修会を開催し、専門知識の更なる研鑽を図りました。市立図書館の職員を講師に招き、読み聞かせ、ブックトークなどの手法を学んだほか、先進市の学校司書を講師に招いて学校司書の実践について講義を受けるなど、意欲的に活動しました。

三年目に向け、さらに充実した活動を目指し、より多くの子供たちに本の素晴らしさを伝えていきたいと考えています。

ここでは、各小・中学校における学校司書のさまざまな取組を御紹介します。



「読み聞かせ」研修中の学校司書

読み聞かせ

雷塚小 長谷川雅美

一年生とひまわり学級に、毎週継続して読み聞かせをしています。

一学期はなるべく楽しく本と仲良くできるようなお話を、二学期にはその他に科学の本、ことば遊び、詩など、本の世界を広げられるようにと考えています。

担任の先生が、朝読書の時間に、長いお話を少しずつ読み聞かせているクラスもあり、子供たちは図書の時間にとっても集中して読書に取り組んでいます。

子供たちは本が好きです。おもしろい本にたくさん出会って、大人になっても本好きでいられるといいなと思います。

校内テレビ放送で読み聞かせ

八小 杉山 薫

図書の時間に、低学年には図書室で読み聞かせを行っています。高学年にも機会を設けて欲しいと要望があり、秋の読書週間に、校内テレビ放送で、紙芝居「いもころがし」を読みました。

目の前に子供たちがいない読み聞かせは初めてで、顔が見えず、反応が分からないので緊張しました。先生方から「静かに聞いていた」「とてもよかったです」などと声をかけていただきました。また、高学年の子供たちからも嬉しい反応がありました。

今回初めての試みでしたが、今後も続けたいと思っています。

きれいになった図書室

三中 小久保 弘美

学校図書館は使われてこそ機能します。

自分の世界を広げていくきっかけを与えてくれる本が、たくさんあることを生徒に知ってもらい、本を手に取りやすくする環境づくりを心掛けています。

興味をもてるように本を紹介したり、新着本の特集を校内に掲示したりしています。館内の書架には、本の顔である表紙が見えるように並べています。本の面白さや魅力を表紙の絵で伝えてあげる・・・押しつけではなく、生徒本人が選び、自然と本を手にとれるように工夫しています。

そして、季節のディスプレイ等やさまざまな情報の掲示を心がけることで、生徒たちの本の世界が広がってきています。



村山学園中学部 8年 郡 朱莉

中学部から小学部へ読み聞かせ

村山学園 中学部 篠 洋子

中学部の生徒四名が、朝学活の時間に小学部一、二年生のクラスへ行き、一人が一冊ずつ絵本の読み聞かせを行いました。

数週間前から、放課後図書室に集まり、準備に入りました。絵本の選び方や、本の持ち方、声の大きさなどを学校司書が指導しました。



9年生の読み聞かせに聞き入る2年生

また、読み終えた本を児童に覚えてもらえるよう、絵本の表紙をコピーして色画用紙に貼り、お薦めのコメントを書きました。生徒たちは選んだ絵本をそれぞれ自宅に持ち帰り、自主練習を重ねました。そして迎えた当日、緊張の中、生徒四人は四クラスへと入ります。きちんと床に座り、聞く準備もバッチリな児童たち。その表情からはとても楽しみしている様子がうかがえ、生徒の緊張感も増します。静かに椅子に座り、読み聞かせが始まると、教室には落ち着いた声だけが響き渡り、集中して聞いてくれているのが伝わります。

読み聞かせを終えた男子生徒の一人に感想を聞くと、「緊張しただけど楽しかった。」と、ホッとした表情で話してくれました。中学生にとつて実りある一日となりました。

読書活動の活性化

五中 西久保 静江

今年度、「読書活動の活性化 読む喜びを感じる生徒の育成」という課題に取り組んでいます。

その一つとして、去る十一月に二年生を対象にしたブックトークの授業を、都立多摩図書館の職員の方にしていただきました。テーマは「危機一髪」。

絵本、小説、ノンフィクションを含めて八冊の本が次々紹介されていきます。

一つのテーマでこんなにたくさん本が次々と紹介されていくことに、生徒たちは驚きと感動を隠しきれない様子でした。そして、ブックトークという手法を興味深く学ぶことができたのではないかと感じられました。

図書室では六月から月二回の放課後、図書室開放の時間の中で「読み聞かせ」を始めました。

毎回三十名程が聴きに來てくれます。第一回目は学校司書が単独で行いましたが、二回目からは図書委員の有志が読み手に参加してくれるようになり、「読み聞かせ」を通して、図書室の蔵書を紹介することに貢献してくれています。

このことが図書室活用の推進、さらに読書活動の活性化の一助となればと願っています。

読書の応援団！ 学校司書の紹介



プロジェクト主任
小川 隆志



五中
西久保静江

四中
西陽子

三中
小久保弘美

村山学園中学部
篠洋子

一中
栗原千代子

十小
木村清子

九小
海野幸子

七小
稲葉智子

雷塚小
長谷川雅美

村山学園小学部
千葉昌世

三小
白戸いずみ

二小
青葉利枝

一小
元木愛枝

編集委員

- 第二小学校 青葉利枝
- 村山学園小学部 千葉昌世
- 第九小学校 海野幸子
- 村山学園中学部 篠洋子
- 第四中学校 西陽子